

ホテルを裏方で支える清掃員専用の iPad アプリを開発 客室管理でフロントと自動連携、現場に 23 台の端末を用意 ペーパーレスの“IT 清掃”で業務効率化と伝達ミス軽減

ホテル運営の創業 118 年目の老舗、(株)龍名館(東京都千代田区、浜田敏男社長、資本金 5 千万円)は、客室管理に特化した清掃員専用の iPad アプリを開発、「ホテル龍名館」ブランドの都内 2 ホテル(「ホテル龍名館お茶の水本店」(御茶ノ水)、「ホテル龍名館東京」(八重洲))で、2016 年 9 月 26 日(月)から運用を開始します。

開発したアプリは、ホテルフロントの宿泊システムと連携します。これまでフロントはシステムに入力された内容(浴衣や加湿器、ズボンプレッサーなど備品の有無)を紙に印刷して、各部屋の清掃業務を各階ごとに指示していました。かつ顧客の細かな要望は特記事項として手書きのメモを添えたり、チェックインの前倒しなど緊急の依頼には無線を使い伝達するなど、顧客一人一人の要望に対してアナログな対応をとっていました。それら業務をフロントのシステムを通じて一元管理できるので、フロントと清掃員の業務効率化と伝達ミスの軽減につながります。

清掃員にとっても大きな業務改善につながります。階を横断した各部屋の清掃状況(完了しているか否か)が手元の端末で随時把握できるので、清掃チーフはスタッフを効率的に配置できます。

また、これまで清掃の完了はスタッフが各部屋のテレビシステムを使い報告し、清掃チーフは情報が集約されるホテルにある 1 台のテレビモニターで全部屋の清掃状況を管理していました。現場チーフは担当場所とその 1 台のモニターを行き来する必要がありましたが、今後は iPad をタップするだけで、清掃チーム全員が状況をすぐに把握できるようになります。



その他、遺失物の報告も現場清掃員が手書きメモを残し、業務終了後にフロントにまとめて提出していました。今後は端末に直接データ入力できます。フロントはそうした現場の情報をすぐに確認できるので、顧客へのクイックレスポンスが可能となります。

新システムの総開発費は約 1500 万円です。運用開始に合わせて、「ホテル龍名館お茶の水本店」、「ホテル龍名館東京」との清掃現場に 16 台、フロントに 7 台の iPad を準備しています。本システム導入後は、顧客ごとにきめ細かくカスタマイズした客室提供を実現すると同時に、2 ホテルの合計清掃時間が、1 日あたり約 1 時間軽減すると想定しています。

担当者	システム導入前	システム導入後
フロント	予約管理システムの内容を各フロアごとに印刷	不要、iPadと連動
清掃員チーフ	特記事項など予約時の備考は手書きで補足	不要、iPadと連動
清掃員チーフ	各フロアに配布	不要、iPadと連動
清掃員	忘れ物発見時、内容を紙に手書きで記入	iPadに直接入力、フロントは瞬時に確認可能
清掃員	清掃後に客室のテレビシステムで完了を報告	iPadをタップするのみ
清掃員チーフ	ホテルに1カ所しかない清掃状況を管理できるテレビモニターの場所へ移動し状況確認	その場でiPadで確認

<ご参考資料:ホテル概要>

**ミシュラン 5 年連続掲載&トリップアドバイザーで好評価
東京駅前のスモールラグジュアリーホテル「ホテル龍名館東京」について**

2009 年開業の「ホテル龍名館東京」(八重洲)の元々は、1899 年創業で現在も営業中の「ホテル龍名館お茶の水本店(旧旅館龍名館本店)」(神田駿河台)の分店として開業した「旅館呉服橋龍名館」(1963 年「ホテル八重洲龍名館」に改称)です。源流である「旅館龍名館本店」は開業以来、画家や作家、芸術家など文化人に愛され、日本画家では川村曼舟や伊東深水らが泊まったこともある伝統ある旅館です。幸田文は小説「流れる」で、帝国ホテルと並び在京の名店に挙げたほか、宿泊いただいた画家が宿泊代の代わりに自身の絵を置くなどのエピソードが残る老舗です。

その文化を汲む「ホテル龍名館東京」は、世界主要都市の高級ホテルのデザインを多数でかけるデザイナー、ジョー・リベラによる内装と、和・洋が融合した気品のある優美なしつらえが特徴で、男性イメージのビジネスホテルとは一線を画すスモールラグジュアリーホテルとして、お客様に定着しています。

東京駅前徒歩 3 分という好立地で、ビジネスはもとより旅行の拠点としても多くご利用いただいています。

これまでにミシュランガイドに 5 年連続(2012 年、2013 年、2014 年、2015 年、2016 年)で掲載されたほか、日経トレンディの「2012 年ホテルランキング」のビジネスクラスの部類で全国 1 位を獲得するなど、高い評価を得ています。また世界最大の旅行口コミサイト「TripAdvisor」の日本法人であるトリップアドバイザーが発表した「外国人に人気の日本のホテルと旅館 2014」において全国 14 位に選ばれるなど、外国人観光客にも人気を集めています。



施設名	ホテル龍名館東京	開業日	2009年6月1日
住所	東京都中央区八重洲 1-3-22	交通	JR 東京駅八重洲北口から徒歩 3 分
客室	シングルルーム、ツインルーム、スイート等 12 種類の客室をご用意		
客室数	客室 135 室、レストラン 2 軒	宿泊料金	20,000 円～ (2015.9 に価格改定)
電話	03-3271-0971	ホームページ	http://www.ryumeikan-tokyo.jp/

「江戸の美」をコンセプトに全面改装

「ホテル龍名館東京」は現在、館内の全面改装を進めています。「江戸の美」をデザインコンセプトに、全 135 室とフロア、ロビーの内装・デザイン・家具・装飾品など全てを刷新します。投資額は約 5 億円で、今年から 2020 年にかけて、段階的に工事を進めます。



6/1 にオープン、「江戸の美」をコンセプトにした客室

改装の第一弾として、10 階ワンフロアの全 20 室の客室と共有スペースを、7 周年を迎える 2016 年 6 月 1 日(水)にオープンしました。

カーペットやカーテン、インテリアなど随所に、松の葉を散らした江戸の伝統文様「松葉つなぎ」や、梅、菊の花などをモチーフにした着物柄に似た和のデザインを取り入れ、「江戸の美」を前面に打ち出します。客室は、日本の伝統色で重厚感のある「茄子紺色(なすこんいろ)」のカーペットと高級感のある金色のカーテン、優しい色合いの草木色をワンポイントに使った寝具でまとめた上品なしつらえです。ソファや壁紙、照明といったインテリアと絵画など装飾品も、その雰囲気を引き立たせる落ち着いたものを選びすぐりました。東京駅前という都心にいながら高級旅館にいるようなゆったりと落ち着いた空間で、“和と江戸の粋”を感じていただけるホテルに生まれ変わります。

全9室スイートルームの小規模高級ホテル 「ホテル龍名館お茶の水本店」について

「ホテル龍名館お茶の水本店」は、「東京の和」をデザインテーマに、9室限定の贅沢なホテルとして2014年8月1日に開業した、これまでにない都市型の小規模高級ホテルです。

ホテルの前身は、明治32年(1899年)創業の「旅館龍名館本店」(2014年3月まで営業)です。同旅館は作家の幸田露伴の次女である幸田文が小説「流れる」で、帝国ホテルと並び在京の名店に挙げたほか、伊東深水や川村曼舟ら画家をはじめ多くの文化人に愛されてきました。



「ホテル龍名館お茶の水本店」は、そうした高品質のサービスや文化、日本旅館のきめ細やかなおもてなしの心を受け継ぎ、「くつろげる究極のおもてなし」をテーマに開業しました。

ホテルには、畳のスペース、信楽焼きの陶器の浴槽や障子など、旅館ならではの“和”の要素を巧みにホテル文化に取り入れています。内装もベージュなど茶系に濃紺やモスグリーン、朱色と落ち着いた色合いでまとめたり、優雅さと気品を兼ね備えた、高級感のある“モダン・シック”な雰囲気です。ホテル1階には「日本茶」を「淹れる」「食す」をテーマとした創作和食レストランも設けており、朝食はそのレストランから日本料理の職人がふるまう本格的な和食をルームサービスにて提供します。

2014年12月には、姉妹店である「ホテル龍名館東京」とともにミシュランガイド東京2015、2016に掲載されたほか、スイス航空の機内誌「SWISS Magazine 11月号」内の特集「東京を訪問する10の理由」にて掲載されるなど、高い評価を得ています。

施設名	ホテル龍名館お茶の水本店	開業日	2014年8月1日
住所	東京都千代田区神田駿河台3-4	交通	JR「御茶ノ水駅」から徒歩3分ほか
施設	9室(全9室スイートルーム/2人1室タイプのみ)、レストラン1軒		
宿泊料金	62,000円～68,000円	電話	03-3251-1135
ホームページ	http://www.ryumeikan-honten.jp/		

報道各位からのお問い合わせ

龍名館 広報担当:濱田 tel. 03-5289-7088 mail: p.r@ryumeikan.co.jp

またはホテル龍名館東京 担当:山口 tel.03-3271-0971 mail: reservation_hrt@ryumeikan.co.jp

または広報事務局・Clover PR 担当:福本、金井、澤本 tel.03-6452-5220 mail: cloverpr@cloverpr.net